

感染症についてのお知らせ



墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

平成30年
6月号

東京都内の感染症流行情報

伝染性紅斑が例年と比べて高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎と水痘が一部地域で増加しています。
咽頭結膜熱(プール熱)とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)は例年並みの発生状況ですが、一部の地域で増加が見られます。

感染症のおしらせ

咽頭結膜熱(プール熱)

咽頭結膜熱とは、アデノウイルスによる感染症です。流行時期は夏期で、プールでの感染があることから「プール熱」とも呼ばれます。

<原因と感染経路>

病原菌はアデノウイルスです。感染力が非常に強く、咽頭結膜熱にかかった人の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことにより感染(飛沫感染)します。また、患者が触れたタオルやウイルスが付着した手を介して感染します。(接触感染)

<症状>

潜伏期間は5～7日程度です。発熱、咽頭炎、結膜炎が3主症状で、そのほか、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢などを生じることもあります。症状は1～2週間程度でおさまります。まれに重症肺炎を合併することがあります。

<治療>

症状に応じた対症療法となります。

咽頭炎によるのどの痛みもあるので、食事をとりやすいよう、柔らかく、薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

<予防のポイント>

こまめに手洗い、うがいを行うことが大切です。

プールや温泉施設を利用する際は、前後に必ずシャワーを浴び、タオルは個別にし、手は石けんと流水で十分洗いましょう。

< 学校保健安全法の登校の基準 >

発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまでは出席停止となっています。

水痘（水ぼうそう）について

水痘とは、水痘-带状疱疹ウイルスによる感染症で、一般的には「水ぼうそう」として知られています。小児によく見られる病気で、2～8歳に多く見られます。

< 感染経路 >

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染(飛沫感染)、あるいは、水疱内容物や粘膜に接触することによる感染(接触感染)や、空気中に飛んでいるウイルスを吸い込む感染(空気感染)です。

< 症状 >

潜伏期間は2～3週間程度です。

主な症状は水疱(水ぶくれ)と38℃前後の発熱です。

全身に直径3～5mm程度の丘疹(盛り上がった赤い発疹)が出現し、水疱、膿疱、痂皮(かさぶた)と移行しますが、様々な段階の発疹が混在するのが特徴的です。

すべての発疹が痂皮になるまで6日程度かかります。

通常、軽症で生涯免疫(一度の感染で生涯、その感染症にかからない)を得ることが多いのですが、成人では重症になることがあり、髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度も高くなります。また、ウイルスは治癒後も体の中に潜伏して、何年も経過してから「带状疱疹」として再発することがあります。

また、妊婦の場合は重症化しやすいといわれています。

< 治療 >

基本的には対症療法です。抗ウイルス薬を使用することもあります。

< 予防のポイント >

有効な予防法は予防接種です。

水痘ワクチンは2014年10月より定期接種となっています。生後12か月から36か月に至るまでの間に、3か月以上の間隔をあけて(標準的には6～12か月)2回接種します。

< 学校保健安全法の登校の基準 >

すべての発疹が痂皮化するまで出席停止となっています。

このお知らせは、東京都感染症情報センター (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>) の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」 (<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/>) を基に作成しています。